エース本田 熱投384球

セイスポ 奮戦 創部初ベスト32!

星槎スポーツ新聞
第2号 ★ 2016年9月5日(月)
星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

熱投を続ける本田投手

第98回全国高等学校野球選手権神奈川大会で星槎国際高等学校湘南学習センター硬式野球部が、創部6年目で初の4回戦進出、ベスト32入りを果たした。(188チーム中)今シーズンのベストゲームと関係者が口をそろえる1回戦。劣勢を8回の集中打で打ち破った2回戦。4番松下壮悟くん(1年)の2本のホームランで、シード校を下した3回戦。4回戦は、茅ケ崎西浜高校のエース宮田惣太投手(3年)の伸びのあるストレートにチャンスであと一本が出ず、目標のベスト8には及ばなかった。

それでも本田仁海くん(2年)は、32回1/3を投げ被安打19、28奪三振、自責点6の好投。4番の松下くんは16打数10安打6打点打率625、5番の大城優斗くん(2年)も17打数8安打1打点打率470と実力を発揮した。2本塁打の他、犠打も11成功し、小技も巧みにこなした。守っても2失策(3回戦まで無失策)だった。また、勝敗以上に目を引くのが選手たちの振る舞いだ。試合前、応援団に向かい挨拶をするのはもちろん、6回が始まる前に行われるグランド整備の際にも、選手全員で整列し一礼をして大会関係者、係の高校生に感謝の意を表した。

4回戦終了後、野球部員を代表して挨拶する小貫キャプテン

地鳴りのような声援は、一瞬のうちに悲鳴に変わった。最後のバッターの打った打球は、ショートに転がった。これまでの3戦とは違っていた。本田投手は3回戦まで、初回を、それぞれ3三振、2三振、三者凡退に打ち取り、相手の打線を封じた。4回戦の先発は、1年生の左腕の石橋投手。今大会初の登板となる。初回、二つの四球に、ヒット、エラー等などが絡んで3失点。2アウトから本田投手に交代したが、相手の勢いを止めることはできなかった。

塩谷貴男部長は、高校野球は3対2で勝つことが理想だという。9イニングの中で、流れが両チームに3回ずつ来る。自らに来る流れを3回ものにし、相手に傾いた流れのうち1回を止める。そうすれば、3対2で勝つというのだ。だとすると、星槎は、初回、2回と失点したものの、その後を本田投手がしっかりと抑えた。相手にいく3回の流れのうちの1回を止めた。星槎にも流れが巡ってきている。5回、6回に1点ずつを挙げている。

星槎に来た3回目の流れは、8回だった。ノーアウト、ランナー2塁。打者は4番の松下くん。この日は茅ケ崎西浜の宮田投手の前に無安打。1ボール2ストライクから、宮田投手がスリークォーターのピッチングフォームから投げ下ろしたのは、内角いっぱいのストレート。見逃しの三振だった。宮田投手がこの日奪った唯一の三振だった。両チームともに3回目の流れはものにできなかったが、初回の失点が響き、結果は5対2となった。

試合後、スタジアムの外で、選手全員が保護者、応援の生徒、関係者に感謝の挨拶をした。選手たちの目からは、大粒の涙がこぼれていた。この試合の先発メンバーのうち6人が1、2年生。流した涙を、生きとし生けるものを育む慈雨とし、大きく成長させるカギは、これからの練習にかかっている。(その他野球部関連記事は第4面に掲載)

4番松下くん

VOICE

土屋 恵三郎 監督

あたたかいご声援をありがとうございます。スタンドの応援と一体となってプレーすることができ、選手は感謝の気持ちでいっぱいです。勝つことの喜びと負ける悔しさ、その他にもいろいろな体験をして生徒たちは一回り大きくなったようです。9名の3年生は全員がさまざまな役割を全うしてくれました。彼らは大きく成長しました。

新チームは、4回戦の2日後7月26日から秋季大会に向けて練習を始めます。次は、さらに皆様のご期待に沿えるよう選手・スタッフ一同頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

選手に指示を出す土屋監督

選手の声 ※数字は背番号

1 本田 仁海(2年)投手
夏の大会では色々なことを学べたので、それを活かしてこれからの練習を一所懸命頑張っていきます。

2 小貫 裕真(3年)捕手
土屋監督の下でキャプテンをやらせていただいたことを誇りに思います。

3 松下 壮悟(1年)一塁手
夏の大会では楽しい思いと悔しい思いをしたので、悔しい思いを胸にこれから頑張りたいです。

4 川口 慶太(3年)二塁手
この大会は忘れられません。本当に楽しかったです。

5 金子 幹太(2年)遊撃・二塁手
この夏初のベスト32まで行き、たくさんの経験が出来ました。悔しさもあったので、それをバネに来年は目標のベスト8に行き、甲子園に行きます。

6 神尾 凌成(1年)遊撃手
1年生で4試合経験できて良かったと思います。負けた悔しさを忘れずに練習したいと思います。

7 大城 優斗(2年)左翼手
夏の経験を活かして、投手を支えられるバッティングができるような打者になります。

8 小林 拓海(3年)中堅手
監督をベスト8に連れて行けなかった事が唯一の後悔です。ここまでみんなで戦えて最高でした。

9 有賀 誠太(2年)外野手
ベスト32まで行くことができて本当に良かった。来年の夏は最後なので絶対甲子園に行きます。

10 石橋 颯太(1年)投手
初めて夏の大会で多くの経験ができました。もっと力をつけて来年の夏に投げられるようにしたいです。

11 佐野 和摩(2年)投手
試合で投げることが出来ず悔しい思いが強く残った大会となりました。

12 田島 大輔(2年)捕手
この夏の大会をバネに、目標であるベスト8以上に行きたいです。

13 原 大雅(3年)投手
最後の夏の大会では、ベスト32でしたがこれもチームが一丸となって取った結果だと思います。

14 川名 裕也(3年)二塁手
最後の大会で良い思い出が作れました。

15 櫻木 翔太(2年)三塁手
今年の夏はミスで負けてしまったので、エラーがないチームにしたいと思います。

16 古谷 健人(3年)三塁手
最後の大会でチームが1つになって戦えて良かったです。

17 落合 優希(3年)左翼手
最後までこのメンバーと一緒に戦えて良かったです。

18 東 俊次(2年)外野手
今年の夏はベスト32という結果でしたが、先輩方の熱い執念や団結力など、夏でしか味わえない雰囲気など、すごくいい経験になりました。

19 宮木 勇治(2年)左翼手
夏は技術も必要になってくるが最後は気持ちだと思う。来年の夏も活躍する!

20 川村 崇敏(3年)捕手
悔しい気持ちもありますがこのメンバーで出来て良かったです。

浅見 僚介(3年)記録員
怪我でプレー出来ませんでしたが違う面で皆と一緒に戦えて良かったです。

応援団の声

長岡 佳佑 教諭(星槎国際高等学校 八王子学習センター)
星槎のバッターの打球が詰まる場面が見られた。茅ヶ崎西浜の宮田投手の球がバッターの手元で伸びていたのだろう。敗戦は悔しいが、エースの本田くんも4番の松下くんも来年がある。これからに期待したい。

岡野 翔さん(野球部OB 2016年卒)
全試合を見に来ていたので悔しい。後輩たちは、自分たちにも夢をみさせてくれた。本田くんがすごく成長をした。よくここまで勝ち上がってくれた。今後はもっと上に行けると思うので頑張って欲しい。

陸上3,000m障害優勝 剣道団体3位

星槎の力が結集

定通全国大会

部活の全国大会が開催された。女子サッカー部はインターハイ（平成28年度全国高等学校総合体育大会）に出場しベスト8に輝いた（関連記事は第6面）。定通全国大会（平成28年度全国高等学校定時制通信制体育大会）は、東京都、神奈川県を中心に開催。陸上競技では、広島の友谷匡希くん（3年）が、男子3000m障害で大会新記録を更新し優勝。あわせて大会最優秀選手（男子）を獲得した。剣道でも、横浜鴨居の豊田昇龍くん（2年）、菅原綾雷くん（2年）が、男子団体（神奈川県B）に出場し、第3位に入った。

表彰される陸上3000m障害優勝 広島の友谷くん（写真中央）

剣道

日本武道館で8月1日に実施。男子団体・神奈川県Bチームは、予選リーグ、準々決勝を快勝。準決勝で東京Aチームと対戦し、2勝1敗の僅差で敗れた。柏高等技術学園の湯浅泰輝くん（3年）、成平和優くん（3年）、南條凌平くん（1年）が出場した男子団体・千葉県Aチームは予選で敗退。女子個人に出場した福井の阿南文望さん（3年）は2年連続の全国大会出場だったが、惜しくも1回戦で敗退した。

顧問 伊藤 鉄也 センター長（横浜鴨居）

結果を見れば3位だが、全国1位を目指していたので残念だ。選手も優勝した東京Aチームに準決勝で敗れ、悔しい想いをしている。来年度、全国1位を奪還できるよう選手と共に頑張っていきたい。

横浜支局 伊藤鉄也撮影

団体3位の横浜鴨居
2年豊田くん（右）、菅原くん（左）

バスケットボール女子

東京体育館で8月2日に実施。福井は全国大会初出場。厳しい試合だったが、選手たちは最後まであきらめることなく戦った。また男子バスケットボール部の近藤武斗くん（2年）がマネージャーとしてチームに帯同。練習の補助等を務めた。

編集部 萩森鉄郎撮影

福井のバスケットメンバー

卓球

駒沢オリンピック総合運動場体育館で8月2日、3日に実施。団体戦は2試合を先取されたものの、その後挽回し2勝3敗だった。敗退したものの前田俊平くん（2年生）はセットカウント2対3と粘りを見せた。個人戦は出場の3名とも初戦で敗退した。緊張からか、普段では見られないようなミスがあった。選手たちは、この経験を秋の大会に生かせるように練習を重ねていく。（沖縄支局 小泉美里）

沖縄支局 小泉美里撮影

会場前の卓球メンバー

顧問 小泉 美里 教諭（沖縄）

大会を通して選手たちは多くの気づきを得た。応援の大切さ、緊張せずにプレーするための笑顔の大切さ等。選手たちは、この悔しさをバネに今後も練習に励んでほしい。

柔道

8月7日に講道館で開催。男子団体、男子個人にそれぞれ2名。女子個人に1名が参加。男子団体は福井が1回戦、郡山（福島）が2回戦で敗退した。個人戦は男女ともに敗退はしたものの、富山の浜川達也くん（2年）、福井の山下真葉さん（1年）は果敢な攻めを見せた。

相手と組合う
富山の浜川くん

サッカー男子

清水ナショナルトレーニングセンター、西ピッチで8月6日に開催。高知高等学院（登録名は星槎国際高知）が出場。猛暑の中でのキックオフだったが前半5分に先取点をあげた。その後、松本筑摩高校（長野）に得点を決められ1対3で前半を終了。後半も頑張りを見せたが惜しくも4対5で試合終了。選手は最後まであきらめない姿勢を見せた。

ソフトテニス

有明テニスの森公園テニスコートで8月8日、9日に実施。女子団体、個人に広島の栗田菜央さん（2年）、山中花さん（1年）が出場。初日の団体では栃木県にストレート負けをしたが、二日目の個人戦は1回戦勝利。2回戦は最終セットデュースに持ち込んだが敗退。それでも最後まであきらめずにボールを追う姿を見せた。（編集部 中村舞）

2年 栗田菜央さん、1年 山中花さん（広島）

ペアを組んで半年、個人戦では今までで一番良い試合ができた。しっかりとした信頼関係も築けたと思う。サーブの強化、ボレーの強化等に取り組み、来年も全国大会に出場したい。

編集部 中村舞撮影

広島の栗田さん（右）と
山中さん（左）

バドミントン

小田原アリーナで8月18日～20日に実施。男子は、団体、個人共に3名が出場。女子は団体に1名、個人に2名が出場した。男子個人では、札幌の戸井文弥くん（3年）がベスト16、団体戦（北海道）にも出場し第3位を獲得した。他に浜松の花井海渡くん（2年）が出場した男子団体（静岡）はベスト16となった。小田原での開催のため、湘南の硬式野球部の生徒が応援に駆け付け、野球の応援そのままの掛け声で選手を励ました。（編集部 澤地実佳）

得点を入れガッツポーズを
する札幌の戸井くん

星槎大米田さんバドミントン日本3位

星槎大学に在籍中の米田健司さんが、5月21日～5月25日（決勝戦25日）にさいたま市総合記念体育館で実施された2016年日本ランキングサーキット大会に出場し、男子ダブルスで見事3位に輝いた。「初戦から接戦の連続で気の抜けない展開が続いたが、開き直ってうまくやれたと思う」と米田さんが語る通り、準々決勝は日本ランキング9位のペアに2ゲーム続けてデュース形式の延長ゲームを競り勝った上での3位獲得となった。

この大会は日本ランキング32位までの選手が出場。大会後、日本ランキングが発表される。現在、男子ダブルスランキング8位の米田さんは、今大会とはペアは異なるものの2014年、2015年に続き、3年連続出場。ペアを組んだ山田和司さんは、同大会男子ダブルスで2013年、2014年の優勝者（ペアは異なる）。

米田さんは、2015年度バドミントン日本リーグ1部4位のクラブチームトリッキーパンダースに所属。平日の午後バドミントンの練習に打ち込む。選手としての活動の他に、高校生の部活のコーチや、ジュニアチームの指導も担当している。さらに通信制大学である星槎大学を利用し、保健体育の教員免許取得を目指している。

現役選手、コーチ、学生の二足のわらじならぬ、三足のわらじを履いている米田さんの次の試合の予定は、第59回全日本社会人バドミントン選手権大会。この大会は、8位以内に入ると11月の第70回全日本総合バドミントン選手権大会の出場資格を得る。全日本総合バドミントン選手権大会は、シングルス優勝、準優勝選手とダブルス優勝選手が日本代表に選出される真の日本一を決める大会となる。その試金石となる全日本社会人バドミントン選手権は、9月3日～9月7日（競技）まで愛知県一宮市の一宮総合体育館他で開催される。お近くの方は、米田さんの応援にご来場ください。

皆様からのお便り

第1号発行後、お手紙やメッセージをいただきました。ありがとうございます。ここでご紹介します。

この度は溢れんばかりの充実した内容を拝見し感じ入っております。成長の機会をサポートしていきたい由　生徒、学生の皆さんがより一層やる気が出て成長につながる事と存じます。「きわめびと」という番組を偶々見た後でしたので指導者によりかくも成長するものかと目を見張るようでございました。

（山梨県Hさん）

この他にも、「創刊、おめでとうございます！」というメッセージを長野県のIさんをはじめたくさんいただいております。

これからも紙面の充実に努めて参ります。これからもよろしくお願いします。

皆様からのメッセージをお待ちしております。今後は星槎の活動だけでなく、地域のスポーツの情報や地域の特色を活かしたユニークなスポーツ大会も掲載する予定です。（編集部）

全国大会結果

インターハイ

◆ サッカー女子
2回戦（ベスト8）
星槎国際湘南 1 – 2 作陽（岡山）
浅越千裕、百武初樹、山室佳代、塩野海風
新山ひかる（3年）、夏目萌由、吉田実来、百瀬碧依
杉山華乃、江原奏音、宮澤ひなた、鹿島栞
喜多村未来（2年）、渋谷巴菜、望月今日、安保舞美
加藤もも（1年）、マネージャー 鏡琉衣（1年）

定通全国大会

※○数字は学年、（　）内は校舎略称、
〈　〉エントリーチーム、選手数

◆ 剣道
男子団体〈27チーム〉
神奈川県B 3位
準決勝 神奈川B 1 - 2 東京A
豊田昇龍②、菅原綾雷②（横浜鴨居）
千葉県A 予選リーグ敗退
湯浅泰輝③、成平和優③、南條凌平①（柏）
剣道 男子個人〈99名〉
湯浅泰輝③（柏）2回戦
南條凌平①（柏）3回戦
剣道 女子個人〈62名〉
阿南文望③（福井）1回戦

◆ バスケットボール 女子〈34チーム〉
福井 2回戦
星槎国際福井 4 - 73 県立大和中央（奈良）
小倉真由香③、松村紗彩③、黒田真由③
巻寄ももか②、畑颯人②、米田美央②、佐々木杏美①

◆ 卓球
男子団体〈50チーム〉
沖縄 1回戦
沖縄 2 - 3 県立岩国商業（山口）
具志堅匠③、名嘉真朝紹③、伊禮光志朗③、
山内泰人③、高嶺航③、前田俊平②、宮里海地①
卓球 男子個人〈196名〉
名嘉真朝紹③（沖縄）2回戦
伊禮光志朗③（沖縄）1回戦
前田俊平②（沖縄）1回戦

◆ サッカー男子〈34チーム〉
高知高等学院 2回戦
星槎国際高知 4 – 5 県立松本筑摩（長野）

◆ 柔道
男子団体〈27チーム〉
郡山 2回戦 福島 2 - 3 秋田
大河原大輔②（郡山）
福井 1回戦 福井 1 - 4 山口
髙木義人③（福井）
柔道 男子個人 90kg級〈28名〉
浜川達也②（富山）1回戦
柔道 男子個人 75kg 級〈25名〉
溝井克③（郡山）1回戦
柔道 女子個人 52kg級〈15名〉
山下真葉①（福井）1回戦

◆ 自転車競技
1kmタイムトライアル〈53名〉
齋藤鳳②（浜松）33位 1分38秒55
4km速度競争〈12名〉
齋藤鳳②（浜松）10位

◆ ソフトテニス
女子団体
広島 2回戦 広島 1 – 2 栃木
栗田菜央②、山中花①（広島）
ソフトテニス 女子個人
栗田菜央②（広島）、山中花①（広島）2回戦

◆ 陸上競技
男子 100m〈104名〉
高橋拓雅①（帯広）予選 12秒96
落合哲己③（広島）準決勝 12秒03
男子 200m〈96名〉
秋葉龍伸①（帯広）予選 26秒28
高橋拓雅①（帯広）予選 26秒55
髙木義人③（福井）予選
男子 400m〈80名〉
瀬尾晃司②（帯広）準決勝 59秒03
栗本寛也①（帯広）準決勝 55秒90
前田晃汰③（広島）予選 1分01秒44
男子 800m〈88名〉
栗本寛也①（帯広）準決勝 2分23秒31
前田拓巳③（福井）予選 2分39秒66
寺口晃太郎②（広島）予選
男子 1,500m〈87名〉
本間峻①（帯広）予選 4分58秒69
前田拓巳③（福井）予選 6分18秒55
村井孝徳③（広島）予選 4分37秒93
男子 5,000m〈64名〉
本間峻①（帯広）予選 19分45秒71
笹嶋博文③（郡山）決勝 18分06秒06
田中拓実③（立川）予選 19分01秒66
岡田晃典②（富山）予選 20分24秒72
友谷匡希③（広島）4位入賞 16分31秒01
村井孝徳③（広島）決勝 17分54秒11
男子 400mハードル〈32名〉
瀬尾晃司②（帯広）5位入賞 1分05秒06
前田晃汰③（広島）予選 1分12秒00
男子 3,000m障害〈29名〉
友谷匡希③（広島）優勝 9分51秒08（大会新記録）
男子 4×100リレー〈39チーム〉
北海道 予選 47秒79
瀬尾晃司②、栗本寛也①･高橋拓雅①、秋葉龍伸①（帯広）
広島 予選 48秒03
第二走者　落合哲己③（広島）
男子 4×400リレー〈29チーム〉
北海道 予選 3分52秒52
瀬尾晃司②、栗本寛也①･高橋拓雅①、秋葉龍伸①（帯広）
男子 走高跳〈49名〉
半井裕大②（八王子）決勝 1m65
髙橋楓汰①（八王子）予選 1m60
男子 走幅跳〈87名〉
安部聖①（仙台）予選 4m56
落合哲己③（広島）予選 4m77
男子 砲丸投〈83名〉
橋爪佑弥③（福井）7位入賞 11m23
女子 100m〈72名〉
遠藤真南②（帯広）予選 15秒78
福井紗貴③（福井）予選 18秒88
久保摩里愛②（福井）予選 17秒47
女子 200m〈64名〉
福井紗貴③（福井）予選 38秒70
久保摩里愛②（福井）予選 38秒17
女子 砲丸投〈55名〉
小倉真由香③（福井）予選 5m43

◆ 軟式野球〈25チーム〉
立川･八王子 2回戦
星槎国際東京 4 - 11 クラーク国際広島（広島）
※7回コールド
星野達郎③、大沢俊輔①、北村真也①（立川）
種藤颯大③、小西翔太③、小林宥渡③、浅見将生③
秦啓一郎②、尾形太陽②、佐藤梨乃①、与那城大生①
大津真真：専攻科①（八王子）
福岡中央 2回戦
星槎国際福岡中央 5 - 7 県立前橋清陵（群馬）
結城涼司③、宮崎克弥③、斉藤光希③、竹島希沙良③
蓑川蓮③、結城淳司②、稲葉真秀②、岡部智也②
木下聖典②、武井翔太郎②、塚本幸大①、内山弘晴①

◆ バドミントン
男子団体〈46チーム〉
北海道 3位 準決勝 北海道 0 – 2 長崎
戸井文弥③（札幌）
浜松 3回戦 静岡 1 – 2 東京
花井海渡②（浜松）
播磨西 2回戦 兵庫 0 – 2 神奈川B
梅元大雅③（播磨西）
バドミントン 男子個人〈97名〉
戸井文弥③（札幌）4回戦
正木貴也①（福井）3回戦
梅元大雅③（播磨西）3回戦
バドミントン 女子団体〈44チーム〉
高知 2回戦 高知 1 – 2 京都
高知高等学院
バドミントン 女子個人〈95名〉
青山はる香③（福井）ベスト8（準々決勝）
高知高等学院 1回戦

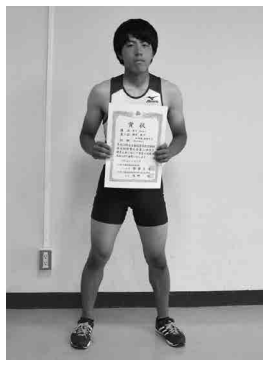
◇ 校舎名
星槎国際高等学校
札幌学習センター、帯広キャンパス、仙台学習センター、
郡山学習センター、立川学習センター、八王子学習センター、
横浜鴨居学習センター、湘南学習センター、
浜松学習センター、富山学習センター、福井学習センター、
広島学習センター、福岡中央学習センター、沖縄学習センター
柏高等技術学園、F.S.播磨西高等学院、高知高等学院

陸上競技

駒沢オリンピック総合運動場陸上競技場で8月12日～14日まで開催。右記の3000m障害の他に男子400mハードル、男子砲丸投、男子5000mで入賞。入賞は逃したが、走高跳も決勝へ進出。競技レベルが長距離種目を中心に年々レベルが上がってきている。今年度も大会記録が更新された。帯広の栗本寛也くん（1年）は、決勝進出は逃したものの、男子400m、男子800mで予選通過する走りを見せた。

男子走高跳で決勝進出
2年 半井 裕大くん（八王子）
全国大会は楽しかった。今日は自己ベストの記録だったが、決勝は出ている選手のレベルが違う。これから自分にあった踏み切り方を練習して来年も全国大会に出場したい。

男子400mハードルで5位入賞
2年 瀬尾 晃司くん（帯広）
入賞は素直に嬉しい。周りの支えがあってこその結果だと思う。練習の時より調子は良かったので、今日は行けるんじゃないかという予感があった。今後は400mハードルを中心に練習し、来年は今年の順位を上回りたい。


400m ハードル 5 位入賞の帯広の瀬尾くん

男子砲丸投で7位入賞
3年 橋爪 佑弥くん（福井）
入賞できるとは思ってもいなかったので嬉しい。競技の途中で、先生からのアドバイスをもらったので、良い記録を出すことができた。

男子3000m障害優勝、5000m4位
3年 友谷 匡希くん（広島）
競技が全て終わって安心している。3000m障害はラスト1周まで油断できなかった。ラストで1位を実感し、大会新を狙ってスパートをかけることができた。これまでは練習で毎日10kmは走りこんできた。今後は自分の将来の夢に向かって頑張っていきたい。

軟式野球

8月14日、15日に実施。創部以来、全国大会3年連続出場の福岡中央は駒沢オリンピック総合運動場軟式野球場で1回戦を行い茎崎高校（茨城県）に15対2（5回コールド）で勝利した。翌15日、太田スタジアムで前橋清陵高校（群馬県）と対戦。斉藤光希くん（3年）の本塁打の他、3本の二塁打を放ったが5対7で惜しくも敗退した。結果はベスト16。全国大会初出場の立川、八王子合同チーム（登録名は星槎国際高校・東京）は2回戦からの登場。15日に明治神宮球場でクラーク記念国際高校・広島と対戦。1対0でリードした4回の裏、エラーをきっかけに8失点。4対11（7回コールド）で敗退。八王子の種藤颯大くん（3年）の本塁打をはじめ、立川の大沢俊輔くん（1年生）の3塁打等打線が見せ場を作った。

3年 宮崎 克弥くん（福岡中央）キャプテン
1回戦を勝利し、嬉しい。その一言につきる。ピッチャーもバッターも出来が良かった。守りも良かった。次からも1戦1戦頑張っていきたい。

立川支局 水上雄斗撮影
力投する福岡中央の結城淳司くん

マラソン4位 10,000m 8位入賞

リオオリンピック結果

※ORはオリンピック記録

ブータン

◆**射撃 女子10mエアライフル**（OR 420.7ポイント）
レンチュ・クンサン 予選45位　404.9ポイント

◆**アーチェリー 女子個人**（OR 673ポイント）
カルマ 1回戦 3－7 トゥヤナ・ダシドルジィーバ（ロシア）

エリトリア

◆**自転車競技　男子ロードレース個人**
ダニエル・テクレハイマノ 43位　6時間29分25秒

◆**陸上 男子5,000m**（OR 12分57秒82）
アブラル・オスマン・アデム 10位　13分09秒56
ヒスケル・テウェルデ 予選　13分30秒23
アロン・キフレ 予選　13分29秒45

◆**陸上 男子10,000m**（OR 27分01秒17）
ゼルセナイ・タデッセ 8位入賞　27分23秒86
グセ・アムロソム 9位　27分30秒79
ゴイトム・キフレ 24位　28分15秒99

◆**陸上 男子3,000m障害**（OR 8分03秒28）
イエマネ・ハイレセラシエ 11位　8分40秒68

◆**陸上 男子マラソン**（OR 2時間06分32秒）
ギルメイ・ゲブレスラシエ 4位　2時間11分04秒
アマヌエル・メセル 21位　2時間14分37秒
テウェルデ・エスティファノス 60位　2時間19分12秒

◆**女子マラソン**（OR 2時間23分07秒）
ネビアト・ハブテマリアム 80位　2時間45分21秒

ミャンマー

◆**射撃 男子50mピストル**（OR 581ポイント）
イェ・トゥン・ナウン 予選17位　552ポイント

◆**射撃 男子10mエアピストル**（OR 591ポイント）
イェ・トゥン・ナウン 予選33位　572ポイント

◆**柔道 男子100kg級**
ヤン・ナイン・ソー 3回戦 一本負 カールリヒャルト・フレイ（ドイツ）

◆**アーチェリー 女子個人**（OR 673ポイント）
サン・ユ・トゥエ 3回戦　0－6　奇甫倍（韓国）

◆**競泳 男子100mバタフライ**（OR 50秒39）
ティン・ミャット 予選　1分02秒54

◆**競泳 女子50m自由形**（OR 24秒05）
エイ・エイ・テ 予選　30秒25

◆**陸上 男子5,000m**（OR 12分57秒82）
サン・ナイン 予選　15分51秒05

◆**陸上 女子800m**（OR 1分53秒43）
スエ・リ・ミン・ミン 予選　2分16秒98

Rio Olympics

第31回オリンピック競技会が8月5日から8月21日までの17日間、ブラジルのリオデジャネイロで開催された。日本のメダルラッシュで大いに話題となったリオオリンピックだったが、星槎が支援をしているエリトリア等も選手団を派遣している。ブータンは射撃等に2名、エリトリアは陸上長距離を中心に12名、ミャンマーは開会式で旗手を務めた柔道のヤン・ナイン・ソー選手の他、6名が参加した。

SEISA OLYMPIC NEWS 未来に向けてスポーツを超え

エリトリアは、陸上競技男子10000mでゼルセナイ・タデッセ選手が8位入賞。男子マラソンには、2015年世界陸上競技選手権大会で金メダルを獲得したギルメイ・ゲブレスラシエ選手が出場。レース序盤、先頭に立つなどし、見事4位に輝いた。またオリンピックの直前に開催されたU20世界陸上競技選手権大会において10000mでエリトリア国内U20新記録を出したアロン・キフレ選手は5000mで出場。残念ながら予選で敗退した。

Road to Tokyo

U20 世界陸上 エリトリア銀メダル!

7月19日～24日、ポーランドのビドゴシチでU20世界陸上競技選手権大会が実施された。エリトリアのアロン・キフレ選手は男子10000mでエリトリアU20新記録の好タイムで銀メダルを獲得。その他にも、男子3000m障害でヤマネ・ハイレセラシエ選手が銀メダルを獲得。エリトリアは国別成績で22位という結果となった（1位アメリカ 10位日本）。

今大会に出場した選手の中で、アウェット・ハブテ選手、ネブヤット・アブラハム選手は、前号で紹介した5月の第250回日本体育大学長距離競技会に参加した。また、モゴス・シュメイ選手は、星槎が神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町とともに取り組むSKYプロジェクト第2弾で来日、小田原市内の小学校、幼稚園を訪問、交流している。

東京へ向けて、未来に向けて、着実に支援が芽吹いてきている。

日本体育大学健志台陸上競技場でのネブヤット選手（左から2人目）

U20 世界陸上競技選手権大会結果

◆**男子5,000m**
5位入賞 アロン・キフレ　13分31秒09
7位入賞 アウェット・ハブテ　13分50秒60

◆**男子10,000m**
2位 アロン・キフレ　27分26秒20
（エリトリア国内U20新記録）
7位入賞 モゴス・シュメイ　28分23秒76

◆**男子3,000m障害**
2位 ヤマネ・ハイレセラシエ　8分22秒67
13位 ゼロム・ベラカイ　8分44秒89

◆**女子5,000m**
ネブヤット・アブラハム選手

◆**国別成績**
22位（22ポイント）

硬式野球部試合結果

◆**1回戦（7月14日）**
小田原球場
星槎国際　9-0　足柄
（7回コールド）

◆**2回戦（7月18日）**
サーティーフォー相模原球場
星槎国際　4-2　立花学園

◆**3回戦（7月22日）**
横須賀スタジアム
星槎国際　5-3　光明相模原

◆**4回戦（7月24日）**
サーティーフォー保土ケ谷球場
星槎国際　2-5　茅ヶ崎西浜

誇るべきサポーター

得点が入るたびに星槎の歌（校歌）が演奏される。応援の硬式野球部の生徒が曲名の書かれたプレートを掲げる。吹奏楽部の鈴木理子さん（星槎国際高等学校八王子学習センター3年）は、野球部の選手も打席ですごい集中していると思いましたが、私たちの応援が聞こえるといいな、とにかく音が選手まで届けと思って演奏しました、と話す。夏の甲子園、県予選で、吹奏楽部、硬式野球部、サッカー部、卒業生、保護者、教職員が一体となった応援を見せた。全て相手の気持ちを想い、自己の役割を果たす星槎の心の表れだ。応援団長の硬式野球部岡野豪くん（2年）は、4回戦まで進めたことは誇りに思っています、と話すが、応援した一人ひとりもまた選手を応援することで共に戦った誇るべきサポーターではないか。

また試合中、打者のバットを片付けるバットボーイを務めた原大雅（3年）くん、ファウルボール処理などにあたるボールボーイの落合優希（3年）くん。二人もまた自分の役割に徹した誇るべき存在だ。

選手とも一体となって、さらに「星槎のパワーを野球場に響かせよう」（星槎学園湘南校吹奏楽部・佐藤瑞穂教諭）

一体感のある応援

佐久間の眼
硬式野球部大会観戦記

野球部の5回目の夏が史上最高のベスト32という成績を残して終わった。最後の試合はテレビ中継された。また4回戦に進出する過程で活躍した選手たちや監督の記事が何紙もの新聞に掲載され、星槎野球部が多くの方に知ってもらえる記念すべき大会となった。

4回戦進出の原動力となったのが2年生エースの本田仁海くんだ。初戦は7回を投げて11奪三振。打たれたヒットはわずか1本。途中まで、〝もしやノーヒットノーラン達成では?〟と期待させる完璧な試合だった。

2回戦は練習試合を含めて一度も勝ったことがない、立花学園。ここでも9つの三振を奪った。3回戦は第三シードの光明相模原。選手たちの体も大きくいかにも強打者揃いという雰囲気。鋭い当たりのツーベースやスリーベースも打たれたが大崩れしなかった。4回戦では1回途中から登板し、試合を締めてくれた。追加点を与えていたら、諦めムードが漂ったかもしれなかったこの試合を、必ず追いつけると思わせてくれたのは、疲れているはずなのに、それを全く見せなかった本田くんの気迫の投球だった。大会を通じて四死球もほとんど与えず、観客やテレビ中継の解説者からも高い評価を得ていたようだ。監督やコーチが勝因としてあげていた、3回戦までの無失策も非常に大きかった。

1年生ショートの神尾凌成くん、2年生キャッチャー田島大輔くんの落ち着いた守備・盗塁阻止などが3回戦までの最少失点の大きな要因となっていたと思う。ヒットも多く生まれた。4回戦のテレビ中継では、チーム打率3割6分4厘と紹介されていた。1年生で4番を任されている松下壮悟くんは4試合で10安打。光明相模原戦では2本の特大本塁打を放ち、テレビ神奈川のインタビューを受けた。また、「ガンバレコール」にも星槎が選ばれ、テレビ放映では苦しい試合に勝った選手たちの嬉しそうな笑顔を見ることができた。

全試合に代打で登場した2年生、宮木勇治くんの活躍も目を瞠るものがあった。初戦でライト越えのスリーベースを放ち2打点をあげると、2回戦でも〝ここで打ってほしい〟という場面で価値あるツーベースを打ち試合を決めた。本人曰く「ネクストバッターズサークルにいると緊張してしまうが、代打でベンチから直接打席に行くと緊張しない」のだそう。ある日のオープン戦に、誕生日だからという理由で代打で出場し結果を出したという宮木くん。チャンスをものにして監督から信頼される選手になり、本番でも見事に期待に応えてくれた。2年生レフトの5番大城優斗くんも攻守ともに大活躍。毎試合安定してヒットを打ち、守備でもピッチャーを助けた。特に光明戦の9回裏のダイビングキャッチは相手に流れがいってしまうのを止める大きなプレーとなった。立花学園戦で4点目のスクイズを成功させた古谷健人くん、全ての試合で出塁したセンターの小林拓海くん、2年生で転入してきたため、公式戦はこの大会にしか出場できなかった好打者川口慶太くん、そして部員48名と大きくなったチームをキャプテンとして引っ張ってきた背番号2の小貫裕真くんなど9名の3年生がここで引退となる。

土屋監督が就任して2年目の夏。星槎野球部の試合は多くの観客の心を惹きつけた。新チームもきっと素晴らしいドラマを見せてくれるに違いない。（本紙評論家　佐久間麻紀）

6年目のサッカー交流

星槎湘南大磯キャンパスで、8月6日、7日に東日本大震災に係るサッカー活動交流支援が実施された。福島県相双トレセンの小学5、6年生31名とコーチ、保護者31名が来校した。初日は、星槎こゆるぎカップ2016を開催。この支援は震災のあった2011年から開始し、今回が6回目。相双トレセンの他、地元の茅ヶ崎トレセン、津久井FC、星槎湘南大磯総合型スポーツクラブのサッカーチームOSAジュニアが参加した。

結果は、茅ヶ崎トレセンが連続優勝を果たした。相双トレセンは、Aチームが3位、Cチームが6位、Bチームが7位だった。

星槎は震災直後から、相双地区（福島県の沿岸地域北部の相馬、双葉地域）での支援を行っている。小学生から高校生のカウンセリング、および学習支援、相馬市の住民健康診断のサポート等は震災以来継続している。中でもサッカーを通しての支援は、星槎の奥寺康彦マイスターや元ドイツ代表のリトバルスキー・テクニカルコーチのサッカー教室、奥寺カップサッカー大会等も行ってきた。相双地区は、地震、津波の被害だけでなく原発事故の影響を受けている。そこで子どもたちに思いっきり体を動かしてもらいたい、スポーツを通して星槎の共感理解教育の実践を図り、子どもたちにもっと笑顔をという想いがあってのことだ。サッカーは世界共通の言語。ボールさえあれば国や文化を超えて交流し、気持ちを通じ合わせることができる。それゆえサッカーを通しての交流を大切にしている。この支援は年3回実施しており、次回は11月に福島県相馬市で実施する。

上位独占！

道都大学が1位～5位を独占した。7月24日、北海道士別市で開催された第30回サフォークランド士別ハーフマラソン大会10km・陸連登録者の部で原由幸さんが31分34秒のタイムで優勝した（19人中）。原さんは昨年の優勝タイムを1分上回った（日本記録10kmロード28分05）。

結果

1位 原由幸（経営学科3年）さん、2位 ジョン・ツオー（経営学科1年）さん、3位 滋野 聖也（経営学科2年）さん、4位 松舘 悠斗（経営学科1年）さん、5位 千田 翔（経営学科1年）さん

表彰台を独占する道都大学生

笑顔で健康に

7月6日、星槎湘南大磯キャンパスで第14回星槎杯グラウンド・ゴルフ大会が開催された。この大会は星槎湘南大磯総合型スポーツクラブが主催。同スポーツクラブは、スポーツを通して地域の健康増進、青少年の健全な育成、地域コミュニティーの創造、豊かな高齢社会等を星槎の理念を活かしながら実現することを目的に2012年2月に設立された。現在はグラウンド・ゴルフの他にサッカースクール、腰痛・膝痛予防体操教室等を実施している。

星槎杯は、2ヶ月に1回開催。毎回、大磯町内の他に近隣の市町村から60名程度が参加する。今回の参加は57名。個人戦、団体戦を行う。1ラウンド8ホールのコースを4ラウンドし、合計の打数を競う。合計打数の少ない者（チーム）が勝利する。個人戦の優勝は、男性の部は大磯町の吉川満生さん（67打）、女性の部は伊藤とみ子さん（72打）。グラウンド・ゴルフは、30年程前に考案されたスポーツ。ゲートボールとは違い打球までの時間の制限がないことや、ルールが比較的に簡単なため、初心者でもプレーしやすいことが特徴。車いすの方もプレーできる。参加者は、プレーを競うのはもちろんだが、他の参加者との会話を楽しみながら笑顔で、仲間作り、健康増進をはかっている。

第14回星槎杯メンバー

原点をたどる ～星槎部活の歴史とその意義～

オピニオン

星槎国際高校 教頭
塩谷 貴男

はじめに

今年の夏は、全国の星槎の仲間がスポーツで大活躍して、私たちに元気と笑顔、そして感動を与えてくれた。女子サッカー部のインターハイ初出場をはじめ、全国定通大会に10競技、17校舎120名が参加した。また、野球部が夏の甲子園を目指す神奈川県予選において創部初の4回戦進出を果たした。その他、全国各地で星槎のユニフォームを着て正々堂々と戦ってくれた。

部活動の原点

ここで、星槎のスポーツの歴史について触れたいと思う。思えば、32年前星槎国際高等学校の前身である宮澤学園高等部が開校した当時は、専用校舎もグランドもなく、もちろん寮や専用バスもなかった。また、用具などの備品も十分でなかった。しかし、スポーツが好きな生徒が集まり、多くの部活動が盛んに活動していた。星槎は、生徒の才能や個性を伸ばし、一人ひとりが輝ける場面を創り上げてきた。特に、部活動を活性化させて学校を盛り上げてきた。

私は、その当時、新任体育教諭としてわずかな野球部員と共にボールを追い、汗を流していた。選手たちでグランドを作り、ランニングで練習場まで移動するなど苦しい困難の連続だった。今のような恵まれた環境ではなかったが、生徒たちは必死になって様々なスポーツに本気で純粋に打ち込んでいた。そして、人間的にも着実に一歩一歩成長してきた。

開校3年目の1988年には、スポーツに特化した保健体育コースを立ち上げ、部活動の入部率が70％を超え、ますます盛んになった。

さらに、開校5年目の平成1990年以降は、部活動の成果が好成績になって現れてきた。特に、新体操部、ボクシング部、軟式野球部の活躍はめざましく、強豪ひしめく神奈川県大会で準優勝を収めた他、5年連続で県ベスト4にも進出した。また、新体操部は関東大会にも出場した。その他、陸上競技部、バスケットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、剣道部、柔道部、空手道部なども神奈川県大会で活躍した。元世界WBAミニマム級チャンピオン新井田豊選手は本校ボクシング部卒業生である。

さいごに

現在の星槎のスポーツ活動の原点は、この姿にあると確信している。今、みなさんが星槎でスポーツに打ち込めるのが当たり前のことではなく、多くの卒業生や保護者をはじめ、星槎に関わるすべての皆さまのご支援とご協力によって、恵まれた現在の環境がある。すべての事に感謝することを忘れずに今後も活躍して欲しいと願っている。

スポーツ☆ここに注目!!

甲子園とブラバンの気になる関係

今年も甲子園で熱戦が繰り広げられた。ここでは、球児たちではなく、ブラスバンド（ブラバン）について紹介する。甲子園は、出場校同士の応援合戦もファンを楽しませる。最近では、高校野球のブラバンの応援を収録したCDが発売されるようになった。

戦後の高校野球人気の高まりの中で、チアリーディングやブラバン等、さまざまなスタイルの応援が登場した。ここが高校野球とブラバンの本格的な関係の始まり。

さて、ブラバンで演奏される曲は、『タッチ』や『狙いうち』などの懐メロが多い。その訳は、「誰もが知っているから」ということにある。高校野球ファンは年齢の幅が広い。誰もが知っている曲となると懐かしのアイドルの曲やアニメの曲になる。誰もが歌うことができ、応援に参加できる曲を演奏している。

高校球児からも、応援する側からも最も人気がある曲の一つは、「アフリカン・シンフォニー」だ。もともとはディスコミュージックであったが、智弁和歌山が応援用に編曲、第69回大会（昭和62年）で演奏したのが始まり。アフリカの広大な大地と民族的なリズム、動物たちの威圧と地響きのようなメロディーのかっこよさから広まったとされる。星槎の吹奏楽団も高校野球の応援で演奏している。戦士のような金管楽器の勇ましい音と魔法使いのような木管楽器の優しい音は、高校球児だけではなく、観客にも楽しさと勇気、元気を与えていると吹奏楽経験者の筆者は感じている。

球児とともに戦うブラスバンドにも注目だ。

（編集部 中村舞）

星槎教師列伝

ここでは、星槎の教職員のスポーツ、文化などで実績を紹介します。

ハンドボールは別名を「空中の格闘技」と言い、サッカーのような接触プレーが特徴。ヨーロッパでは人気があり、各国にプロリーグが存在する。身長の高い選手が多い中、三村は小柄ながら名選手であった。

三村がハンドボールを本格的に始めたのは高校1年生の時だ。中学校2年生まではバスケットボール部だった。スポーツ推薦で入学した高校のハンドボール部には、全中（全国中学校体育大会）出場者が沢山いた。三村は、自分以外は同級生含めて全員うまい子ばかりだった、と回想する。平日は毎日16時から18時30分までの練習。夏休み、春休みの合宿では夜の12時まで練習をしたこともあった。もちろん部活が休みの日はほとんどない。周りを高いレベルの生徒に囲まれ、必死に練習する中で、三村も実力を伸ばしていった。ポジションはポスト。チームの戦術への高い理解力と敵、味方が密集した中でのオフェンス力、ディフェンス力が要求される。新チームになった高校2年生で三村はレギュラーになった。新チームになってから、痛みを伴うある決断を生徒みんなでくだした。その決断が、チームのみんなの心を一つにし、何とかして勝たなくてはというムードを作った。その結果、3月の全国高等学校ハンドボール選抜大会で3位。高校3年生のインターハイで母校に初の優勝をもたらした。

三村は、毎日、いつ部活をやめようか、いつやめようか、そればかり考えていた。仲間がいなかったら、ハンドボールを続けていなかっただろう、と高校時代を振り返る。同級生は、自分よりハンドボールがうまくても決して上から目線でなく、三村に寄り添って励まし、アドバイスをくれた。その仲間こそが、三村の高校時代の宝物である。

取材の最後に三村は、ハンドボール面白いよね。生徒と一緒にやりたいね、と楽しそうに話した。

（文中敬称略）

「空中の格闘技」インターハイで全国制覇
三村 紫十美 センター長
星槎国際高校 名古屋学習センター

読むスポーツ（読むスポ）

野球が好きな人は多い。野球は試合だけでなく、1打席ごと、1イニングごとに勝負がある。攻撃側が2ストライクまで追い込まれていてもそこからヒットは出るし、守備側がノーアウト満塁のピンチを迎えても、そこから無得点に抑えることができる。野球では一つの勝負ごとに、日常生活ではあまり起こることがない逆転が起こる。そこに見る者は自分自身を投影し、ドラマを見出していくのかもしれない。本作は、高校野球をテーマにしたノンフィクション。作者の山際淳司は、日本シリーズ広島対近鉄の9回裏の攻防を広島の江夏投手の心理を中心に描いた「江夏の21球」で知られる。本作は、1979年の夏の甲子園、箕島高校対星稜高校の延長18回の一戦をテーマとしたノンフィクション。星稜高校が1点を勝ち越した延長16回の裏2アウトという場面での星稜高校の1塁手のファールフライのエラーとその後の同点ホームランに焦点を当てながら、選手たちの心理を分析していく。作品末で、選手たちとエラーをした1塁手の心理は「カクテル光線」という言葉に収斂していく。野球が選手一人ひとりのドラマの上に繰り広げられていることに改めて気づかされる。

（『スローカーブを、もう一球』所収・角川文庫）

第2回
「八月のカクテル光線」山際（やまぎわ） 淳司（じゅんじ） 著

セイスポ 星槎のサッカーを目指して 女子サッカー部 インターハイベスト8

試合後、応援団に挨拶する選手

星槎国際高等学校湘南学習センター女子サッカー部が、インターハイ（平成28年度全国高等学校総合体育大会）に出場。ベスト8入りを果たした。

星槎女子サッカー部の保護者、湘南の教職員だけでなく、星槎国際高等学校広島学習センターの生徒、教職員、高松学習センターの教職員も応援に駆け付けた。試合は、酷暑の中行われた。

星槎女子サッカー部は、7月29日、広島県福山市にある竹ヶ端運動公園陸上競技場において昨年度インターハイベスト8の強豪・開志と1回戦で対戦、3対0で勝利した。翌30日も同じ会場で作陽と対戦し、1対2で敗退した。作陽は昨年度インターハイベスト8、今年度は準優勝した。作陽が決勝までの4試合で失った2失点のうち、1点は星槎女子サッカー部が奪った。

ボールを支配しながらゲームを進めていくのが星槎女子サッカー部のスタイルだ。宮澤ひなたさん（2年）が前線から相手にプレッシャーをかける。中盤ではボールを持った相手選手を2人で囲む。逆に相手に迫られても体を上手く使い、ボールを相手の足が届かない所でキープする。セカンドボールも星槎のものになる。相手は中々ボールを奪うことができない。そのため、開志は中盤を飛ばすロングボールを多用した。一方、作陽は前に出る圧力が強く、度々個人の力で星槎ゴール前まで迫った。後半に奪われた2点はいずれも自陣でのFKから。「セットプレーへの対応は今大会は徹底できてなかった」（キャプテン山室佳代さん）という通り、一瞬の虚をつかれた失点だった。

ゴールを喜び合う選手たち

星槎女子サッカー部・柄澤俊介総監督は、大きな大会を経験した。チームとして一回り安定感が増した。また、インターハイ直後の磐田（静岡）、御殿場（静岡）遠征も実りのあるものだった。プレッシャーが激しくてボールを失うことがあっても動揺することがなくプレーできるようになった、と今大会を振り返る。夏を乗り越え、成長した星槎女子サッカー部に期待したい。冬の選手権（全日本高等学校女子サッカー選手権大会）の神奈川県予選（第25回神奈川県女子サッカー選手権大会）の決勝トーナメント準々決勝は9月10日16時に星槎湘南大磯キャンパスでキックオフ予定。

VOICE

キャプテン 3年 山室 佳代さん

3年生の最後の最後でインターハイに出場できた。初めての夏の全国大会で自分たちがどれくらい活躍できるのか、結果が出せるのかというある意味挑戦だった。その意味で、冬の選手権につなげられる大会だった。

副キャプテン 3年 百武 初樹さん

初めての夏の全国大会で、いつもとは違う経験ができた。暑さの中での試合で、これからはさらに強く気持ちをもってサッカーに取り組まなくてはいけないと想いを新たにした。

応援にも注目

星槎の試合ではいつも応援歌が会場全体に響き渡る。応援の生徒も、ピッチの選手と同じように酷暑の中、応援歌を歌い続けた。今大会の新曲も披露され、選手たちを鼓舞した。

声高らかに歌う応援団

試合結果

◆ 1回戦（7月29日）
星槎国際湘南 0 - 3 開志学園 JSC高等部（新潟）
得点：（星槎）加藤もも2点、宮澤ひなた

◆ 2回戦（7月30日）
星槎国際湘南 1 - 2 作陽（岡山）
得点：（星槎）山室佳代
（作陽）松島育美、森本紗也佳
会場：共に、福山市竹ヶ端運動公園陸上競技場

星槎の星になれ

5人目 プロ誕生

8月10日、星槎国際高等学校湘南学習センター男子サッカー部3年生の市川暉記（あきのり）くんが、J2リーグ横浜FCと選手契約（ゴールキーパー）をした。市川くんは、同校の前身のOSA（星槎学園高等部・奥寺スポーツアカデミー）時代を含め5人目のプロ選手となる。

契約と同時に行われた記者会見には、学校法人国際学園の井上一理事長をはじめ、横浜FC代表取締役会長の奥寺康彦さん、強化ダイレクターの福田健二さんも出席。福田健二さんは、市川くん獲得の経緯を次のように説明した。横浜FC代表取締役会長で、星槎学園の名誉校長であり、星槎国際高等学校マイスターの奥寺康彦さんへ、男子サッカー部・大森酉三郎総監督から市川くんの横浜FCへの練習参加の打診があった。当初は2日間の練習参加の予定だったが、トレーニングマッチまで延長となった。市川くんのパフォーマンスが予想以上だったからだ。トレーニングマッチでのパフォーマンスも高評価を得、コーチングスタッフからぜひとも獲得して欲しいとの要請。また選手からも、高校生であの冷静な立ち居振る舞いはみたことがないとの声がでる程評判だった。コーチ、現場の選手等の意見が一致しての獲得決定となった。

ユニフォームを手にする市川くん（左から２人目）
写真左より、井上理事長、奥寺代表、福田ダイレクター

井上理事長から「星槎の星になれ！」という熱い激励があった後、市川くんはメディア関係者を前に、日々努力を怠らず成長し、1年目から試合にからんで横浜FCの勝利に貢献したい。多くの方に認められるプレーヤーになりたい、と意気込みを語った。

市川くんは、身長を活かしたハイボールへの対応の技術の高さ、シュートストップが魅力だという（男子サッカー部、平田涼コーチ）。

奥寺代表からは、礼儀正しさ、練習内容の高さ、選手も感銘を受けた。日本代表になって欲しい、と期待の期待を込めたエールがあった。

会見で市川くんは、サッカーのプロの入口に立ち得た理由を自分なりに分析し、次の3つのポイントを挙げた。

❶共に高みを目指して戦った仲間がいたこと。
❷すばらしい環境と恵まれたスタッフに出会えたこと。
❸自分自身の小さい頃からの夢をあきらめたくないという強い気持ち。

この3つのポイントを具体的にみていく。

市川くんは二人の兄の影響を受け、幼稚園に入る前から地元のサッカーチーム・FC中井で練習をしていた。小学生になり正式にFC中井に入団。小5の冬に初めてゴールキーパーをした。その後ゴールキーパーを続けることに。中学生から湘南ベルマーレ小田原で練習を重ねた。高校はいくつかの選択肢の中で星槎に決めた。「先生方が熱くアプローチしてくれた。ここでなら成長できると思った」（市川くん）、「先生方がみな情熱があった。星槎はみんなが温かかった」（父 義寿さん）。人工芝のグランド等環境面の良さも決め手の一つ。

永瀬裕記男子サッカー部監督が、他の学校に比べてプロになりたいと思って入学する選手は多い、という通り、仲間の意識は高く、個人の意識の高さがチームの意識の高さにつながっていると市川くんは感じている。

市川くんの性格は、芯が強く、負けず嫌いの所であると関係者が口をそろえていう。この強さは、絶対にプロになるという決意となっている。そのため自己管理をし、ウエイトを絞ることに成功した。入学時は、走ることが苦手だったが、今ではフィールドプレーヤーと比べても早く走ることができるようになった。決意を胸に、平田コーチと二人三脚で練習し、努力を重ねた。サッカー以外のさまざまなことを星槎で体験し、精神的にも成長した。

男子サッカー部関係者は市川くんの将来を、「地域の方々から横浜FCの市川くんだね、と言われ、愛される選手になって欲しい」（平田コーチ）、「プロの舞台で厳しい戦いをしながら、星槎で学んだことを表現して欲しい」（大森総監督）と期待する。市川くんの今後に大いに期待！

※横浜FC：1998年に設立。星槎国際高等学校湘南学習センターのリトバルスキーテクニカルアドバイザーもかつて監督を務めた。三浦知良選手が所属していることでも知られる。

市川くんプロフィール

身長：190cm　体重：86kg
利き手：右　利き足：右
目標とするサッカー選手：ブッフォン（イタリア代表）
趣味：和太鼓（地元中井町の五所八幡宮例大祭でも叩く）
好きな食べ物：イクラ、から揚げ

強豪に挑む 女子バレー部

星槎国際高等学校湘南学習センター女子バレー部が、7月21日、第24回関東私立高等学校男女バレーボール大会に出場（64チーム）した。予選Aリーグで、下北沢成徳高校、駿台学園高校、高崎健康福祉大学高崎高等学校と対戦、3戦し3敗。残念ながら予選敗退した。今回対戦したのは強豪ぞろい。特に下北沢成徳高校は、今年度インターハイに出場している名門校。リオオリンピックの日本代表の木村沙織選手、荒木絵里香選手を輩出しているトップクラスの強豪。副キャプテンの星野綾香さん（3年）は今大会を、強豪校と戦うことができ、いろいろなことが学べたと思います。強い相手と戦う中でも、自分たちが粘り負けしないようなバレーができるよう練習していきます、と振り返る。春高バレー（全国バレーボール高等学校選手権大会）の予選は11月から始まる。3年生にとっては最後の大会。羽田野義博監督は、「接戦を勝ち抜けるチーム」を目標に指揮をとる。

得点を挙げて　２年生八田花梨さん（左）、副キャプテン、３年星野綾香（右）さん